

別府フリースクールうかりゆハウスはこどもたちの「生き抜く力を養う」「内なる光を輝かせる」場所です。公教育を問い直したい元教諭や、哲学カフェや読書会といった社会教育の対話の場や日本語教育に携わってきた大人たちが参加・運営しています。

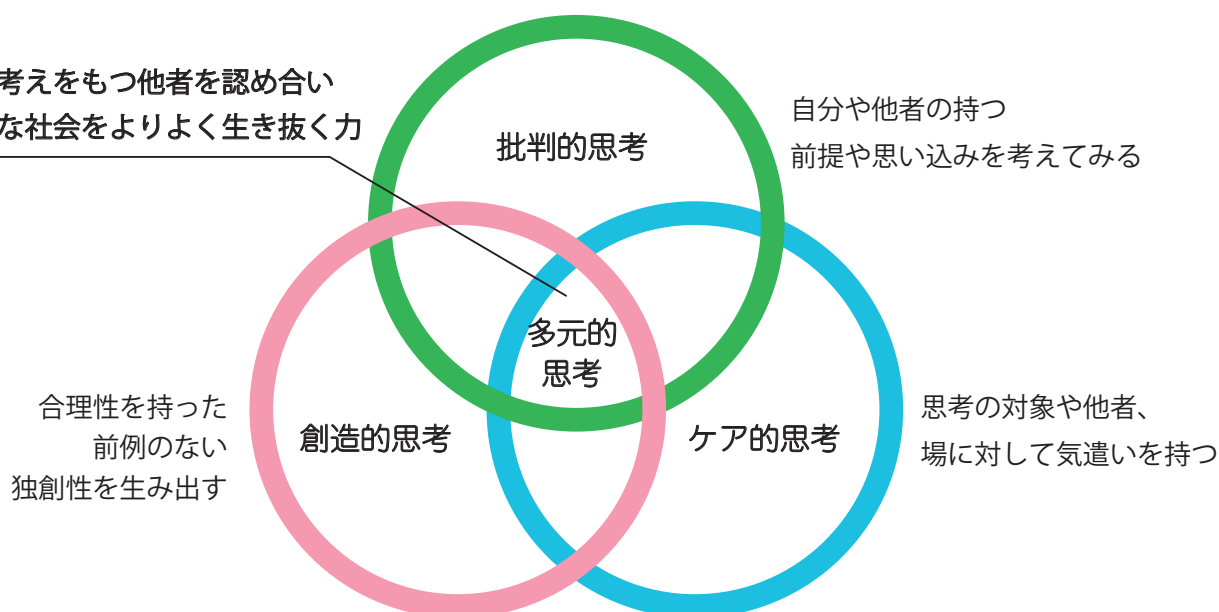
ここに通うこどもたちは、家庭や学校で普段接する大人とはちがう大人たちとコミュニケーションをとることで、自分たちが住んでいる世界の広さを知っていきます。

同様にうかりゆハウスに来る他のこどもたちと共に過ごすことで自分とは違う生き方、考え方と出会い、相互の信頼関係をゆっくりと醸成していきます。ここで生涯にわたる友達を持つこともあるでしょう。不登校でもコミュニケーションをとることが苦手とは限りません。色んな人と関わって世界を広げていきます。

ここにいる大人たちは、こどもたちと過ごしながら彼等が抱く問題や不安について相談に乗ったり共に考えたりします。そのことで、不満や不安を取り除いたり、問題に向き合うことを促したりします。このような経験を積むことが生き抜く力に繋がっていきます。将来、進路など選択を迫られたときに、よりよい判断をする、よりよい進路を切り開く力になっていきます。自分の光が消え入りそうなこどもたちが再び元気になっていく場所です。

うかりゆハウスはいつ来てもよい、何をしてもいい場所です。大人たちが居場所の常識的な使い方や過ごし方ができるようにいつも見守っています。同時にここはいつでも自習できるようにしています。宿題や勉強の遅れを取り戻す機会をいつでも用意しています。塾相当の教材を用意し、自主的に学習を進められるようにサポートしています。勉強以外にも、一緒にコンクールに挑戦したり、人前でパフォーマンスをしたり、ボランティアをしたりして、こどものやる気と可能性を引っ張り出します。この教育のベースには、マシュー・リップマンの創始した「こども哲学」の理念に多く負っています。

異なる考えをもつ他者を認め合い
不透明な社会をよりよく生き抜く力



参考：マシュー・リップマン著『探求の共同体：考えるための教室』（2014年，玉川大学出版部）

PHILOSOPHY